



2023年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2023年2月7日

上場取引所 東

上場会社名 東邦化学工業株式会社
 コード番号 4409 URL <https://toho-chem.co.jp>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 中崎 龍雄
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役経理本部長 (氏名) 川崎 正一
 四半期報告書提出予定日 2023年2月14日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(TEL) 03-5550-3735

(百万円未満切捨て)

1. 2023年3月期第3四半期の連結業績(2022年4月1日~2022年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年3月期第3四半期	42,069	14.8	872	△16.4	753	△49.2	522	△40.0
2022年3月期第3四半期	36,645	24.3	1,044	40.1	1,482	118.0	870	121.8

(注) 包括利益 2023年3月期第3四半期 1,348百万円(△0.8%) 2022年3月期第3四半期 1,358百万円(22.5%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年3月期第3四半期	24.76	—
2022年3月期第3四半期	40.84	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2023年3月期第3四半期	69,381	17,767	25.5
2022年3月期	66,489	16,907	25.3

(参考) 自己資本 2023年3月期第3四半期 17,681百万円 2022年3月期 16,815百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年3月期	—	0.00	—	15.00	15.00
2023年3月期	—	0.00	—	—	—
2023年3月期(予想)	—	—	—	15.00	15.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2023年3月期の連結業績予想(2022年4月1日~2023年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	55,800	11.9	1,490	10.8	1,260	△34.8	910	△34.8	43.01

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
 - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
 - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
 - ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	2023年3月期3Q	21,350,000株	2022年3月期	21,350,000株
② 期末自己株式数	2023年3月期3Q	321,991株	2022年3月期	21,990株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	2023年3月期3Q	21,118,010株	2022年3月期3Q	21,328,010株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、添付資料P. 3「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(追加情報)	8
(セグメント情報)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間における我が国経済は、新型コロナウイルス感染症の影響は続いているものの、行動制限の緩和等により社会経済活動が徐々に正常化に向かい、景気は緩やかな持ち直しの動きが見られました。しかしながら、ロシア・ウクライナ問題の長期化や、コストプッシュ型の物価上昇による消費意欲の減退、米国をはじめとする各国の金融引き締めによる世界経済の減速などが懸念され、当面は厳しい環境が続くことが予想されます。

化学業界におきましては、中国や欧州をはじめ世界的に石油化学製品の需要が鈍化しており、加えて原材料価格や用役費の値上がりや高止まりが業績の下押し要因となる厳しい状況となっています。

このような経営環境下、当社グループの当第3四半期連結累計期間の売上高は、原材料価格や用役費の値上がりに伴う売価の上昇により、前年同期比5,424百万円、14.8%増収の42,069百万円となりました。

損益面につきましては、第1四半期は、原材料価格・用役費の急騰に対する製品価格の値上げが遅れたことによるマイナス影響が大きかったものの、第2四半期以降は、製品価格の値上げの進捗に伴い、国内の収益は回復に向かいました。しかしながら、第2四半期においては、中国・上海市のロックダウンや、近接する他社の爆発火災事故による当社連結子会社東邦化学（上海）有限公司の操業の一時停止、ロジンの相場価格の大幅な値下がりによる当社連結子会社懷集東邦化学有限公司での在庫評価損発生等、マイナス要因が重なりました。（当社の海外子会社の決算期はいずれも12月であるため、4月1日から6月30日までが第2四半期の対象となります。）第3四半期は、世界景気の減速傾向が強まる中、製品需要は総じて弱含みで推移しましたが、製品価格の値上げ効果によって国内収益が回復し、海外子会社においても第2四半期に発生した上述のマイナス要因が概ね解消したことから、営業利益は第1四半期及び第2四半期と比較して大きく改善し、前年同期比でも増益となりました。しかしながら、第2四半期までの遅れを挽回するには至らなかったことから、当第3四半期連結累計期間の営業利益は前年同期比171百万円減益の872百万円にとどまりました。また、前年同期に営業外収益として462百万円を計上した為替差益や95百万円を計上した受取保険金が当第3四半期連結累計期間に僅少だったこともあり、経常利益は前年同期比729百万円減益の753百万円、親会社株主に帰属する四半期純利益は前年同期比348百万円減益の522百万円となりました。

セグメント別の状況は次のとおりです。

なお、第1四半期連結会計期間より報告セグメントを変更しており、アクリレートをスペシャリティケミカルセグメントから樹脂セグメントに移管しております。当第3四半期連結累計期間の比較・分析は、変更後の区分に基づき記載しております。

(界面活性剤)

香粧原料は、一般洗剤の販売数量が減少したものの、ヘアケア用基剤の販売数量の増加や原料価格の値上がりに伴う製品売価の上昇により増収となりました。プラスチック用添加剤は、主力の帯電防止剤や乳化重合剤が振るわず減収となりました。土木建築用薬剤は、製品売価の上昇により増収となりました。農薬助剤は、国内を中心に販売数量は減少したものの、製品売価の上昇により増収となりました。繊維助剤は、国内外ともに販売数量は減少したものの、製品売価の上昇により増収となりました。紙パルプ用薬剤は、製品売価の上昇により増収となりました。

その結果、当セグメント全体の売上高は、前年同期比3,129百万円、15.8%増収の22,995百万円となり、セグメント利益は、第2四半期において1億円を超える製品廃棄損が発生したこともあり前年同期比84百万円減益の522百万円となりました。

(樹脂)

石油樹脂は、販売数量は減少したものの、製品売価の上昇により増収となりました。合成樹脂は、自動車部品向け等の販売が伸長したことに加え、製品売価の上昇により増収となりました。樹脂エマルションは、金属表面処理剤等が振るわず減収となりました。アクリレートは、海外での販売が低調で減収となりました。

その結果、当セグメント全体の売上高は、前年同期比312百万円、9.0%増収の3,773百万円となり、セグメント損益は、23百万円の損失（前年同期は47百万円の損失）となりました。

(化成品)

合成ゴム・ABS樹脂用ロジン系乳化重合剤は、自動車関連需要が低調で海外を中心に販売数量が減少し減収となりました。金属加工油剤は、販売数量は減少したものの、製品売価の上昇により増収となりました。石油添加剤は、国内の販売数量が増加したこと並びに製品売価の上昇により増収となりました。

その結果、当セグメント全体の売上高は、前年同期比396百万円、8.0%増収の5,328百万円となり、セグメント利益は、懷集東邦化学有限公司における在庫評価損の発生もあり前年同期比155百万円減益の62百万円となりました。

(スペシャリティーケミカル)

溶剤は、一般的に販売は低調であるものの、製品売価の上昇により増収となりました。電子情報産業用の微細加工用樹脂は、半導体関連の販売数量の増加並びに製品売価の上昇により増収となりました。

その結果、当セグメント全体の売上高は、前年同期比1,586百万円、19.1%増収の9,879百万円となり、セグメント利益は、電子情報材料用樹脂製造所の新設に伴う減価償却費等の固定費の増加もあり、前年並みの343百万円となりました。

なお、上記の各セグメント利益又は損失の前年同期比の数値は、後記P. 8 (セグメント情報) 「報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報」の表における「報告セグメント」の比較情報です。

その他に、各セグメントに帰属しない調整額(棚卸資産の調整額等)が△35百万円(前年同期は△76百万円)あります。

(2) 財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末の総資産は、69,381百万円と前期比2,892百万円の増加となりました。その内訳は、流動資産が3,026百万円増加の37,929百万円、固定資産が134百万円減少の31,452百万円です。

流動資産の主な増減要因は、現金及び預金が2,109百万円の減少、受取手形及び売掛金が2,456百万円の増加、棚卸資産が3,276百万円の増加、仮払消費税や未収入金、未収消費税等の減少を主因とするその他(流動資産)が596百万円の減少です。

固定資産の主な増減要因は、有形固定資産が191百万円の増加、投資その他の資産が313百万円の減少です。

一方、負債合計は51,614百万円と前期末比2,032百万円の増加となりました。主な増減要因は、支払手形及び買掛金が2,396百万円の増加、短期借入金が1,360百万円の増加、未払法人税等が157百万円の減少、賞与引当金が330百万円の減少、設備関係支払手形の減少を主因とするその他(流動負債)が1,770百万円の減少、社債が500百万円の減少、長期借入金964百万円の増加です。

純資産は、17,767百万円と前期末比859百万円の増加となりました。主な増減要因は、利益剰余金が、配当金の支払いと親会社株主に帰属する四半期純利益との差額により202百万円の増加、自己株式取得により156百万円の減少、その他の包括利益累計額が、その他有価証券評価差額金が297百万円減少した一方で為替換算調整勘定が1,087百万円増加したことなどにより819百万円の増加です。

その結果、自己資本比率は25.5%となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

通期連結業績予想につきましては、売上高は、製品需要が総じて前予想時の想定よりも弱含みで推移していることから、前予想を下回る見通しです。

利益面につきましては、売上高の下振れによるマイナス影響はあるものの、固定費支出の抑制によってカバーし、前予想の達成は可能と見込んでおります。

その結果、2022年11月4日の「2023年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)」において公表いたしました2023年3月期の通期連結業績予想を変更しております。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2022年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	7,502	5,392
受取手形及び売掛金	13,322	15,779
棚卸資産	12,596	15,873
その他	1,487	891
貸倒引当金	△7	△8
流動資産合計	34,902	37,929
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	11,766	13,816
機械装置及び運搬具（純額）	4,952	5,509
土地	3,145	3,145
建設仮勘定	2,811	538
その他（純額）	2,026	1,884
有形固定資産合計	24,703	24,895
無形固定資産	1,324	1,311
投資その他の資産	5,559	5,245
固定資産合計	31,586	31,452
資産合計	66,489	69,381

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2022年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	9,109	11,505
短期借入金	8,693	10,054
1年内償還予定の社債	1,300	1,400
未払法人税等	250	92
契約負債	14	40
賞与引当金	571	240
その他	5,645	3,875
流動負債合計	25,585	27,209
固定負債		
社債	1,900	1,400
長期借入金	14,750	15,714
退職給付に係る負債	5,935	6,107
資産除去債務	66	67
その他	1,344	1,115
固定負債合計	23,996	24,404
負債合計	49,581	51,614
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,755	1,755
資本剰余金	896	896
利益剰余金	11,314	11,517
自己株式	△6	△163
株主資本合計	13,959	14,006
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	2,034	1,737
為替換算調整勘定	1,193	2,280
退職給付に係る調整累計額	△372	△343
その他の包括利益累計額合計	2,855	3,675
非支配株主持分	91	86
純資産合計	16,907	17,767
負債純資産合計	66,489	69,381

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)
売上高	36,645	42,069
売上原価	31,300	36,779
売上総利益	5,344	5,289
販売費及び一般管理費	4,300	4,416
営業利益	1,044	872
営業外収益		
受取利息	5	6
受取配当金	82	103
為替差益	462	-
受取保険金	95	12
物品売却益	42	48
その他	28	26
営業外収益合計	718	197
営業外費用		
支払利息	203	235
為替差損	-	17
その他	76	63
営業外費用合計	279	316
経常利益	1,482	753
特別利益		
固定資産売却益	-	0
投資有価証券売却益	-	104
特別利益合計	-	104
特別損失		
固定資産廃棄損	41	41
投資有価証券売却損	-	0
生産停止に伴う損失	203	65
特別損失合計	244	106
税金等調整前四半期純利益	1,238	751
法人税等	357	234
四半期純利益	880	517
非支配株主に帰属する四半期純利益又は非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	9	△5
親会社株主に帰属する四半期純利益	870	522

四半期連結包括利益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)
四半期純利益	880	517
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	203	△297
為替換算調整勘定	251	1,099
退職給付に係る調整額	23	28
その他の包括利益合計	478	830
四半期包括利益	1,358	1,348
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,342	1,342
非支配株主に係る四半期包括利益	16	5

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(追加情報)

2022年3月期決算短信の(追加情報)に記載した、新型コロナウイルス感染症の影響の収束時期等を含む仮定及び会計上の見積りについて、重要な変更はありません。

(セグメント情報)

I 前第3四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:百万円)

	報告セグメント					その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期 連結損益 計算書 計上額 (注)3
	界面 活性剤	樹脂	化成品	スペシヤ リティー ケミカル	計				
売上高									
日本	17,190	2,584	2,467	7,806	30,047	45	30,093	—	30,093
アジア	2,304	873	2,159	437	5,774	44	5,818	—	5,818
その他	371	3	305	49	730	3	733	—	733
顧客との契約か ら生じる収益	19,866	3,461	4,932	8,293	36,553	92	36,645	—	36,645
外部顧客への 売上高	19,866	3,461	4,932	8,293	36,553	92	36,645	—	36,645
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—	81	81	△81	—
計	19,866	3,461	4,932	8,293	36,553	173	36,726	△81	36,645
セグメント利益 又は損失(△)	607	△47	217	343	1,120	0	1,121	△76	1,044

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、環境調査測定・分析業務等を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失(△)の調整額△76百万円には、棚卸資産の調整額△88百万円等が含まれております。

3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第3四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位：百万円)

	報告セグメント					その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期 連結損益 計算書 計上額 (注) 3
	界面 活性剤	樹脂	化成品	スペシャ リティー ケミカル	計				
売上高									
日本	20,150	2,904	2,759	9,379	35,194	51	35,246	—	35,246
アジア	2,420	860	2,117	335	5,733	37	5,771	—	5,771
その他	424	8	451	164	1,048	2	1,051	—	1,051
顧客との契約か ら生じる収益	22,995	3,773	5,328	9,879	41,976	92	42,069	—	42,069
外部顧客への 売上高	22,995	3,773	5,328	9,879	41,976	92	42,069	—	42,069
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—	△79	△79	79	—
計	22,995	3,773	5,328	9,879	41,976	12	41,989	79	42,069
セグメント利益 又は損失(△)	522	△23	62	343	904	3	908	△35	872

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、環境調査測定・分析業務等を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失(△)の調整額△35百万円には、棚卸資産の調整額△74百万円等が含まれております。

3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメント変更等に関する事項

当社は、2021年末に策定した「事業ポートフォリオ基本方針」および2022年5月に策定した「TOHO Step Up Plan 2024」に基づき、事業の「選択と集中」を一層徹底するための取り組みを進めており、当社グループの事業展開、経営資源配分、経営管理体制等の観点から経営管理手法を見直し、報告セグメントの変更を実施いたしました。その結果、従来「スペシャリティーケミカル」に含めて開示しておりましたアクリレートを、第1四半期連結会計期間より「樹脂」に移管しております。

なお、前第3四半期連結累計期間のセグメント情報につきましては、変更後の区分方法により作成しております。